

令和2年度に向けた我が校の教育ビジョン

作成年月日：2019年12月11日

伊丹市立鈴原小学校 (学級数 15学級、児童数 365人)

1 本年度の取り組み状況(11月末現在)

- (1) 教育委員会指定研究発表会 11月21日(木)
2・4・6年授業公開及び講演会 講師：兵庫教育大学大学院 吉川 芳則 教授
- (2) 2020年2月20日(木)～22日(土) 図工展実施予定(次年度は音楽会)
- (3) 土曜わくわく自習室 年間17回実施(漢字・算数検定、英語・理科・自然体験等)
がんばりタイム(放課後学習) 毎週水曜日実施
- (4) 特別支援教育の視点を活かした一人ひとりが自己発揮できる教育の推進

2 めざす学校像

教育目標「心ゆたかで たくましく 自ら学び高め合う子」
～特別支援教育の視点をすべての児童の指導に生かす～

- (1) 児童一人ひとりが自己を発揮し、学ぶ喜びを感じることができる学校
- (2) 保護者と「育てたい子どもの姿」を共有し、ともに歩むことができる学校
- (3) 地域と手を携え、地域ぐるみで子どもを育てる喜びを感じられる学校

3 めざす子ども像

- (1) ゆたかな子 ……感性豊かで思いやりがあり 助け合える子
- (2) たくましい子 ……心身ともにたくましく 最後までやりぬく子
- (3) 自ら学ぶ子 ……自ら学び 考え 主体的に行動できる子
- (4) 高め合う子 ……人とのかかわりを通して 互いに高め合う子

4 めざす教師像

- (1) 愛情を持って一人ひとりの児童に寄り添い、良さを引き出せる教師
- (2) わかる授業づくりに真摯に取り組み、情熱を持ち徹底して指導する教師
- (3) 互いに切磋琢磨し合い、協働して教育活動に取り組むことのできる教師
- (4) 保護者や地域とのふれあいを大切にし、信頼にこたえられる教師
- (5) 社会の変化に対して、本質を捉えながら将来を見据え、柔軟に対応できる教師

5 我が校の特色

- (1) 小規模校のならではの良さを活かし、児童も教員も学年を超えて親密な交流が構築できている。(バラ園交流、すずはらフェスティバルなどの異年齢交流)
- (2) 保護者、地域が互いに協力し合って、地域行事を行うとともに安心安全で美しい環境づくりを推進している。(すずはら祭り、子ども見守りDay、クリーンリン大作戦、社会科見学、バラ園公開等)
- (3) 幼小交流および地域との連携を教育課程に位置づけ、地域の教育力を学校教育に活かしている。
- (4) 教職員が、経験年数や立場を超えて互いに謙虚に学び支え合う職員風土がある。

6 我が校の研究概要

- (1) 研究主題
「自ら考え学び合う子を育てる」～よく考え、よく表現するための場づくり～
講師：兵庫教育大学大学院 吉川 芳則 教授
- (2) 研究内容
 - ①探求的な単元を創造する
 - ②思考が深められる授業づくりをする

- ③教育活動全体で適切な言語活動を充実させる
 - ④単元ごと、学年ごと、全学年での学びのつながりを意識し、授業や教育活動に活かす。(カリキュラムマネジメント)
- (3) 授業力・指導力の向上に向けて
- ①年間3回 講師を招聘して校内授業研究会(事前・事後研究会の工夫)
 - ②一人一授業公開(「研推だより」による参観後の振り返りの共有)
 - ③個々に参加した研修について研修内容の共有(毎週水曜日)
 - ④自主研修「まなべる」の開催

7 学力向上に向けた取り組み

- (1) 基礎的基本的な知識・技能の習得
- ①日々の授業の充実→学習内容の基礎基本の確実な習得させる
 - ②発達段階や教科の特性に応じたノート指導や板書、発問の工夫等により教科指導を充実させる。
 - ③反復練習やドリル学習等により基礎基本的な知識や技能を習得させる。
- (2) 知識技能を活用して課題を解決するために必要な力の育成
- ①国語を中心に全教科及び教育活動全体で言語活動の充実を図り、思考力や表現力を培う。
 - ②個人学習、ペア学習、グループ学習を効果的に設定し、自分のことばで表現する体験を通してコミュニケーション能力を育成する
 - ③学習の成果や課題を適切に自己評価する力(メタ認知)を育てる。
 - ④ICT機器を活用して授業の活性化を図り、児童の興味関心を持続させる。
- (3) 主体的に学習に取り組む学習環境づくり
- ①学習規律・学習習慣の定着を図る。
 - ②児童をひきつける教材や発問、体験活動の工夫
 - ③「めあて」の確認、「ふり返り」を行い、見通しを持って学習させる。
 - ④克服的な課題により、粘り強く学習する態度を育てる。
- (4) 異学年交流等を活用した表現の場づくり
- ①自分の表現したことが相手に的確に伝わったかどうかを確認する意識を育てる。
 - ②相手の理解を確かめながら、よりわかりやすい表現を工夫する。

8 教職員の勤務時間の適正化に向けた取り組み

- (1) 週1回の定時退勤日と月2回のマイ定時退勤日の設定
- (2) 週1回のノー会議デーの設定
- (3) 校務の電子化とパソコンを活用したペーパーレス会議
- (4) 校務分掌の見直しと会議の精選
- (5) 超過勤務時間前年度比10%減

9 今後に向けて

AIの急速な発展や情報化に伴い価値観が多様化する時代だからこそ、「人間だからこそできること」「教育の真と新」を教師自身がしっかり捉え、「人とつながる」「努力を惜しまない」「あきらめずに知恵を絞る」「新しいことに柔軟に対応する」態度を育てることがますます大切になると考える。そのために以下の4点に取り組んでいく。

- (1) 支持的風土があり、一人ひとりの居場所がある学級集団づくり
- ①個々の児童の特性や願いの把握
 - ②個々の児童の良さを引き出し、評価することによる自尊感情の育成
 - ③児童同士が互いに認め合い、人にやさしくする心と実践力(思いやりの育成)
 - ④「してはならないこと」「すべきこと」の指導の徹底
 - ⑤いじめの未然防止といじめを許さない学校づくり

(2) 学びの基礎となる力の確立

①生活習慣及び学習規律の徹底

・早寝早起き朝ご飯 ・学習の準備 ・あいさつ ・返事等

②ルールを守り安全安心に過ごせる環境づくり

③児童会を中心とした自治意識の醸成

(3) 特別支援教育の視点を活かし、どの児童も安心して教育活動に参加できる環境作り

①個々の児童の特性についての的確に把握し、課題をふまえた授業支援

②見通しを持って学ぶための環境の工夫・ルールの明確化・視覚的な支援等

(4) 学校の情報公開

①育てたい子どもの姿、教育活動の実際について適時に保護者、地域に知らせる。

③学校便り、ホームページを充実させ、学校の方針について周知する。

伊丹市立鈴原小学校 校長 臼井 久美

我が校のHPのアドレスは http://www.s_suzu@itami.ed.jp